

鳥と人間の関係学をめぐるって

文化人類学と環境文学の対話

文化人類学では、マルチ・スピーシーズ民族誌が、人間と非人間の絡まりあう状況に着目することによって、人間（の文化）のみを扱う、これまでの文化人類学から、「人間的なるものを越えた人類学」へと視野をいま大きく拡大しつつある。他方、文学における人間と自然環境の関係性を探究する学問領域として、環境文学研究あるいはエコクリティシズムと呼ばれる文学批評がある。本研究セミナーでは、非人間であり、自然的存在者である、人間にとって未知なる滑空者としての「鳥」をめぐるって、民族誌学と環境文学研究の間の対話を試みる。これまで近すぎて気がつかれなかった文・文の学際的な対話の先に、ポストヒューマニティーズ研究の行方を探ってみたい。



2016年
2月18日(木)
13:00～

● **会場**

東北大学川内南キャンパス 文学部棟
2階大会議室
(仙台市青葉区川内 27-1)

● **最寄駅**

仙台市営地下鉄東西線 川内駅
(キャンパス直結)

● **参加費**

無料

1

呪術師ワタリガラス、糞をひる

内陸アラスカの鳥をめぐる神話・狩猟・バーソンフッド

近藤祉秋 (アラスカ大院、文化人類学)

2

鳥を〈かたる〉言葉

山田悠介 (立教大院、環境文学)

3

リーフモンキー鳥のシャーマニック・パースペクティブ的美学

ボルネオ島狩猟民ブナンの鳥と人間の民族誌

奥野克巳 (立教大学、文化人類学)

4

テキストの剥製、あるいは剥製の詩学

19世紀アメリカ文学における鳥の表象

山本洋平 (明治大学、アメリカ文学)

コメンテータ

山田仁史 (東北大学、宗教学、民族学)

野田研一 (立教大学、環境文学)



お問合せ

東北大学大学院文学研究科文化人類学研究室

Tel:022-795-6042 E-mail:tohoku-anthropo@sal.tohoku.ac.jp

主催

東北人類学談話会

共催

科研費基盤研究 (A) 「動物殺しの比較民族誌研究」